

「日々の理科」(第 4420 号) 2026, -9, 16

「秋の北極圏旅行記(2)」

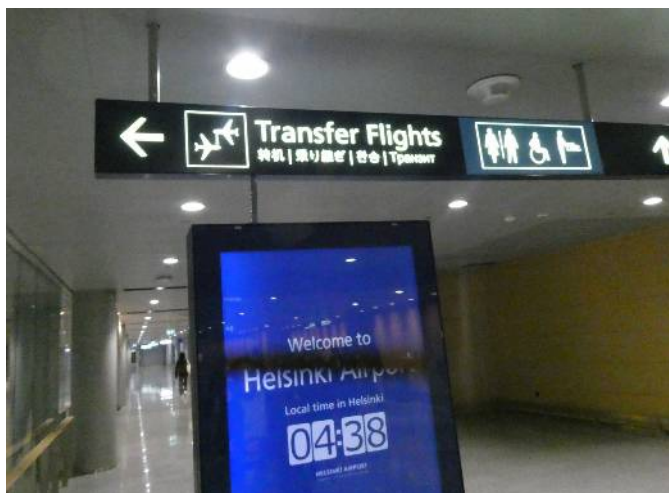
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

現在、シベリア経由の国際線は、モスクワ直行便ぐらいしなくなっている。その結果、日本から欧州線の航空機はすべて北極海経由になってしまいました。時間、航続距離とも大幅に増加し、旅行者にとっても負担が大きくなってしまった



機はスカンジナビア半島の最北部（ノルウェーのホーニングスボーク付近）から南下してヘルシンキに向かうのだが、半島にさしかかるよりも前に、飛行距離が 10,000km を超えてしまいました。11 時間で、地球を 4 分の 1 周した計算です。

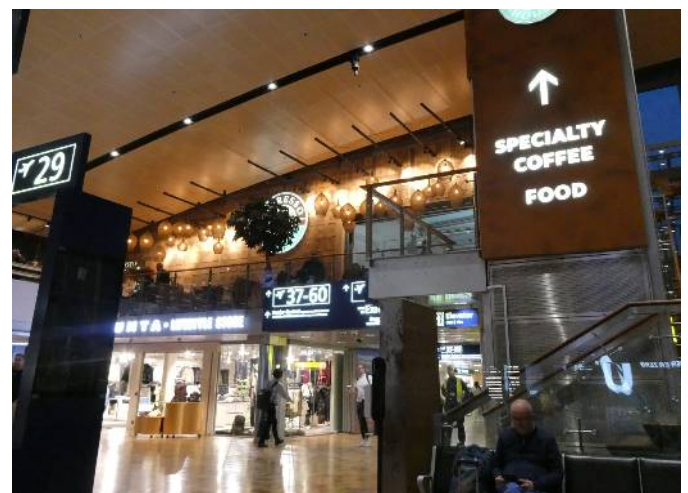


それでも何度かとうとうとしているうちに、ヘルシンキ空港（ヴァンター国際空港）に着陸しました。思ったよりも短かったなという印象です。しかし、パイロットを始め、機のスタッフの負担は確実に増加しているだろうと、心配になりました。

07:00	Amsterdam	KLM	KL1248	6E3344
07:00	Tallinn	FINNAIR	AY1011	JL9317
07:05	Frankfurt	Lufthansa	VL853	LH4121
07:05	Stockholm Arlanda	norwegian	D82602	
07:05	Rovaniemi	FINNAIR	AY531	QF8965
07:05	Berlin	FINNAIR	AY1431	JL6899
07:05	Kuopio	FINNAIR	AY361	HO3236
07:10	Reykjavik	FINNAIR	AY991	JL6893
07:10	Krakow	FINNAIR	AY1161	JL9313
07:10	Gothenburg	FINNAIR	AY861	JL9367
07:15	Stockholm Arlanda	SAS	SK701	KL8461

ヘルシンキでは、フィンランド国内線に乗り継ぎます。降機→保安検査（機内持ち込みの手荷物検査）→欧州への入国審査→乗り継ぎ便搭乗の順になります。ところが楽勝だと思っていた「保安検査」がものすごく厳しく、私を含め同行者 3 人も、全員再検査、再々検査になってしまいました。私がひかかったのは歯磨き粉チューブで、「120g」というのが抵触し、没収されてしまいました。もともと半分ぐらい使用済みだったのに、何でだよ〜〜〜！！って感じですが、仕方ありません。羽田の保安検査ではまったく問題なかったものも、ヘルシンキではひっかかるので、十分慎重になる必要があります。

その後の欧州への入国審査は、「どこ行くの？何日滞在？何しに来たの？どこに泊まるの？何回目？」など、ごく普通の質問で、難なく通過できました。「もう 20 回以上来てますよ」と言ったら、「そんなにスオミ（フィンランド）が好きなの？」と笑われました。



入国審査が終わると、欧州エリアです。日本の空港とちがって、フィンランド国内線だけではなく、欧州全域のさまざまな行先のゲートが混在しています。シ

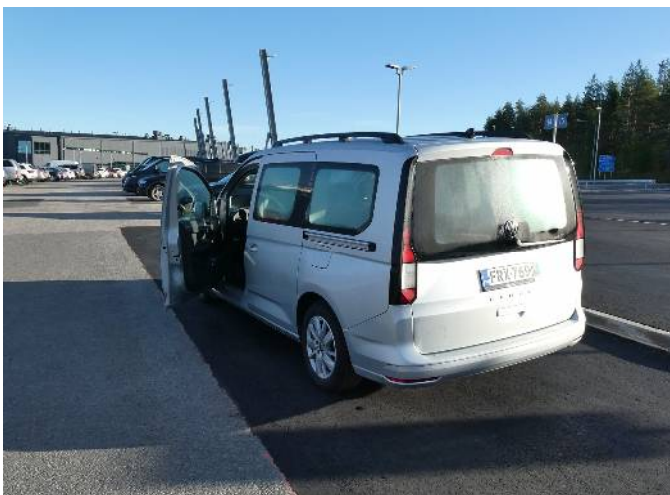
エンゲン条約に加盟している国は、通関上一つの国と見なされ、一度どこかの国に入国してしまえば、あとは移動は自由なのです。



フィンランド国内線は早朝の便だったので、右（東側）の機窓に日の出が見られました。あとは森と湖と雲だけが広がっています。



1時間ちょっとの搭乗で、ロバニエミ空港に着きました。ロバニエミはサンタクロースも街として有名で、空港内もクリスマスの雰囲気です。



空港でレンタカーを借りました。今回は大きな荷物が多く、現地では友人も同乗する予定なので、7人乗りのワゴンを借りました。3列目のシートをフラットにすると、5つのスーツケースや手荷物も余裕で収まりました。



空港には朝8時過ぎに着き、レンタカーの手続きも数分で終了。空港から車で5分ほどの「サンタクロース村」に寄っていくことにしました。まだ早朝だったので、メインのサンタの家や周囲の売店、郵便局もほとんど開店していませんでしたが、少し待ってさっそくショッピングを楽しみました。



このサンタ村の中には「北極圏境界線」があります。この線は「北緯 66 度 33 分」の緯度線のことです。この線よりも北側が北極圏なのですが、急に北極っぽく、ツンドラになったりシロクマが出たりするわけではありません。この緯度よりも北では「1年に1日以上、白夜（一日中太陽が沈まない）と極夜（一日中太陽が昇らない）が訪れる」という、地理学上・・・というよりも天文学上の機械的な境界線です。この日は日本人だらけで、この境界線で写真を撮っていました。